

---

# 天使の祈り

水城由羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使の祈り

### 【Nコード】

N0578E

### 【作者名】

水城由羅

### 【あらすじ】

高校生の那美は剣道部の狼真に恋をしていた。クリスマスイブの日一人で公園にいますと突然不思議な女の子が現れた。

ねえ、知ってる？

クリスマススイブに降る雪は神様が皆の願いを叶えるため天使をつかわせているんだよ

天使の祈り

「はぁ・・・」

誰もいない公園のブランコに座りあたしは冷たくなった手に息をかけ擦り合わせた。

空を見ると曇り空。そういえば雪が降るって天気予報で言ってたなとぼんやり考えた。

昨日から冬休みで美術部である私は外にデッサンに出ていた。クリスマススイブは人が多い。本当はイルミネーションとか描きたかったんだけど人の多さを見て無理だと思って引き上げてきた。

あの人も今頃・・・

「何暗い顔しているんですかぁ？」

横のブランコから声がしてキィとブランコが揺れたかと思ったたら私の目の前に白いコートを着た茶色がかった黒い髪を二つ結びにした6歳くらいの女の子が私の目の前に立っていた。

あれ・・・人の気配しなかったよね？

「どうしたんですかぁ？」

その子は私の顔を不思議そうに覗き込んできた。

「な、なんでもないよー！」

私は両手をブンブンと振った。

「良ければあたしに貴方が暗い表情してした理由教えてもらいませ

んかあ？」

のんびりとした口調でその子は隣のブランコに座った。

なんでこんな見ず知らずの子に・・・

と思ったけど女の子の澄んだ瞳を見てたら話しても良いかななんて  
思えてしまった。

「あなた・・・名前は？」

「アリア」

「アリア・・・ちゃん？私は・・・」

「那美お姉ちゃんだよね？」

「え・・・うん・・・」

ニコニコ笑うアリアちゃんに私は眉をひそめながら頷いた。なんで  
知ってるんだろう。

「で、教えてもらっても良いですかあ？」

「あ、うん・・・あのね、私好きな人いるんだ。同じクラスで剣道  
部の人。私美術部でね、一度コンテストに出展するためにモデル頼  
んだことあるんだ」

嫌な顔せずに嬉しそうにオーケーしてくれた笑顔。

「部活やってる姿だから面つけてるから表情は見えないって言った  
んだ。『別に表情見えても構わない』って言ってくれたけど嬉しか  
ったな。オーケーしてくれたの」

あの時の笑顔を思い出して私は微笑んでしまった。

出来上がるまで毎日剣道部に行ってデッサンさせてもらった。

「先生も出来上がった絵を見て今までが一番良いって言ってくれて  
コンクールに出展。結果はそろそろ出るんだけどね」

苦笑する私。あの絵が駄目だったらどうしよう。不安なんだ、私の  
恋心まで否定されたような気がして。本当は今日もデッサンって言  
うの口実に結果聞きたくなくて逃げてきたんだ。

あの絵を否定されたら私どうすればいいの？だって・・・

「彼女がいるのに・・・」

ポツリと呟く。

「あの人には彼女がいるんだ。小学校からの腐れ縁って言うてた。剣道部のマネやってる。私と違う美人で快活な女の子」

無理して笑う私を見透かしたようにアリアちゃんは怒ったような表情で私をじつと見ていた。

「なんで、那美お姉ちゃんはその人と比較するんですか？那美お姉ちゃんは素敵です。こんな優しい絵を描けるじゃないですか！」

アリアちゃんは私のスケッチブックを奪うとパラパラと私に見せた。友達に頼んで描かせてもらった友達の微笑んだ顔、並木道、道端の花・・・どれも私が描いた絵。

「優しい絵です。優しい塗り方です。那美お姉ちゃんは優しくて細やかで道端の小さな名もない花にも目を向けられる人です！だから・・・だから・・・」

アリアちゃんはポロポロと大きな涙を流し始めた。

「ごっ、ごめんね！！」

私は慌てて立ち上がりアリアちゃんを抱きしめた。

「那美お姉ちゃん・・・今日は願いが叶う日・・・なんだよ？だからね・・・お願い事を・・・言つて？」

「お願い事・・・私は・・・我俣を一つ言つていいなら、あの人と・・・三剣くんと一緒に過ごしたいです・・・」

アリアちゃんは私の腕から離れると私の前でニコリと笑い手を胸の前で組んだ。

そしてゆっくりと目を瞑った。

それはまるで神聖なもののように私は目が離せなかった。

暫くするとアリアちゃんは瞳を開いた。

「これで大丈夫。ねえ、知ってる？クリスマススイブに降る雪は神様が皆の願いを叶えるため天使をつかわせているんだよ」

可愛い笑顔を見せると公園の外へ走って行ってしまった。

「アリアちゃん！？」

アリアちゃんのいなくなつたほうを見るとチラチラと空から真っ白な雪が降ってきた。

そして、アリアちゃんの代わりに公園にやってきた人。

「三剣くん!？」

「おう。橘。先生に言伝預かってんだ」

やってきた三剣くんは制服に竹刀に胴着の入った袋を下げている。多分部活の帰りだったんだろう。

「美術の野田先が何度電話しても橘が出ないからってさ。ちょうど会って橘の絵が入選されて今度展示会に出されることを伝えてくれて。すげーな、おめでとう」

三剣くんの笑顔と入選したことに嬉しくて涙が出そうになった。

「ありがとう・・・」

「入選した絵ってさ俺がモデルになった奴だろ？俺も観に行つて良いか？」

「う・・・うん・・・」

地面に落ちていたスケッチブックがパラパラと風で捲れる。止まったページには三剣くんの笑顔。モデルを頼んだ時にこっそりデッサンしたものだっただけ。

三剣くんがそれを見つめ私は慌てて拾った。

ス、ストーカーが変態だと思われたらどうしよう!!

最悪なイメージが頭をよぎる。だけど三剣くんの言葉はそんなものじゃなくて・・・

「あの、今の絵すげーな！一番良い笑顔だ!!あれさ!試合に勝ったときのだろ!？嬉しくてさ、橘にむけて笑ったんだぜ!」

屈託の無い笑顔と言葉にスケッチブックを落としそうになる。

三剣くんは少し頬を赤く染めた。

「だってさ、俺橘のこと好きでさ・・・」

神様、これは夢ではないのでしょうか？

「マネージャーさんは三剣くんの彼女じゃないの?」

「あいつは幼馴染!あいつにはちゃんと彼氏いるしな」

そうなんだ・・・

スケッチブックを強く握り締め言葉を紡いだ。

「私もね、好きだよ。三剣くんのこと・・・」

「マジで！？うわぁ！！やっぱさっきアイツに願い言って良かったぜー！！」

ガッツポーズを決める三剣くん。

「ん？アイツって？」

「白いパーカーきたツバサって奴。いきなり現れてビビッたぜ」  
それってなんか・・・

「私も白いコート着たアリアちゃんって子に背中押されたの」

「もしかしたらマジで天使だったのかもしれないーな。だってさ・・・」

「「クリスマスイブに降る雪は神様が皆の願いを叶えるため天使をつかわせているんだよ」」

私たちは声を揃え同じことを言いお互いきょとんと顔を見合わせた後笑った。

アリアちゃんとツバサくんは本当に天使だったのかもしれない。

私たちは空を見上げ、降り続ける雪を静かに見つめていた。

後日展示会へ足を向けた私たち。

「うお！俺カッコイイ！！那美の目にはこういう風に俺が映ってたんだな」

「そうだよ。なんか恥ずかしいな。狼真くん早く違うところ行こうよ」

「まだ！！もうちょい見せろよ」

「はぁ・・・」

目の端にアリアちゃんらしき子が映り振り返る。

そこには誰もいなくて・・・

「どうした？」

「今アリアちゃんと男の子がいた気がしたんだけど・・・」

「ツバサじゃねえ？きつと那美の絵、見に来たんだろ」

「そうかな・・・？」

そうだと良いな。

アリアちゃんとツバサくんがあの日私たちのことを祈ってくれたように今度は私たちがアリアちゃんとツバサくんの幸せを祈ろう。

終わり



## （後書き）

あとがき

クリスマス小説です。高校一年のとき文芸部で出した作品の改良版。あの頃ワンプコのゾロナミにはまってまして主人公と相手の名前をかなり無理矢理に使った覚えがあります。今回もその名残です（笑）

たちはな なみ 橘 那美ちゃん みつるぎ 三剣 ろうま 狼真くん。

天使ももともとは狼真君のほうには出てきませんでした。  
那美ちゃんも美術部じゃなくもつと安直だったような・・・  
今も安直なのは変わりませんが・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0578e/>

---

天使の祈り

2011年1月8日21時12分発行